



「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」特集

「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」が、9月8日(日)高崎市市民活動センターソシアス他において開催されました。当日の受付は9時開始予定でしたが、30分前には並んでおられる方も多勢おり参加された方々の熱心さには心をうたれました。当号はフォーラム特集として大会長と実行委員長のメッセージ、教育講演・ランチョンセミナー・各セッションに参加された方々のご感想やご意見をご報告いたします。

「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」を終えて

大会長 介護老人保健施設若宮苑 安藤 繁

長らく準備を重ねてきた「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」が9月8日に開催され、参加者および関係者の協力により盛会のうちに終えることができましたことをご報告いたします。

参加者は222名で、計画どおりの規模と内容を担保することができたのも須田実行委員長はじめ実行委員、理事、支部長、支部役員、参加者…実に多くの方々の献身的な協力の賜物と心より感謝いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

今回も教育講演とケアマネジメント技術に資する演習およびレクチャーという組み合わせの内容でしたが、参加された方々の感想はいかがでしたでしょうか？また、参加はできなかったものの抄録を手にした方はどのような印象を持たれたのでしょうか？主催者側としては気になるところですが、「皆が全力を尽くした」という事実を見てきた大会長としては胸を張ることができます。正に「チーム」として機能していました。

さて、大会前日を起点として次回の準備が始まるのがフォーラムの素晴らしいところです。事実、前日より次期大会長の田中志子先生、副大会長の松本勝美理事、実行委員長の佐藤智昭支部長が打ち合わせに参加されました。次回の“XI in 沼田”が今から楽しみです。

最後になりますが、名実ともに共催してくださった高崎市、そして広告をお寄せくださいました多くの法人や企業の皆さまに感謝・御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご厚情とご厚誼を賜りますよう、当協会をよろしく願いいたします。



「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」を終えて

大会実行委員長 じゃんけんぽん 須田 和也

去る9月8日「ケアマネジメント群馬フォーラムX in 高崎」を無事終了することができました。当日はあいにくの天候でしたが、220名を超える参加があり「技術としてのケアマネジメント」を高めるためのフォーラムとなりました。

今回の大会運営については昨年11月より実行委員会を開催し毎月1回のペースで実行委員の中で話し合いを重ねて来ました。

今大会フォーラムの抄録集「あとがき」にも記載させて頂きましたが、私のようなものがフォーラムの実行委員長が務まるかどうか不安な中での準備作業でしたが、大会長をはじめ、実行委員皆さんの多大な協力があったからこそ無事終えることが出来たのだと思っています。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

フォーラムの運営に関わることは一見、日中の通常業務と同時に進めて行かなければならないことも多く、とても大変なことのようには思えます。

しかし「得られるもの」も大きく、皆で協力して1つのことに作り上げて行く大切さやそこに至るまでの過程やマネジメントの重要性などを改めて感じる事ができました。決してケアマネジメントの職務に無関係なことではなく、こうした活動を通じての学びも大きかったと感じております。

ケアマネジメント群馬フォーラムは今後も続きます。今後も県内の各地域の持ち回りで開催しますので、お近くの地域で開催される際には是非、フォーラムの運営にも携わって頂けると嬉しく思います。今後もケアマネジメント群馬フォーラムを盛り上げて行きましょう。



教 育 講 演

演 題：ケアマネジメントに活かすための認知症の知識について
～疾患中心から本人中心の考え方へ変わるために～

講 師：医療法人相生会認知症センター

東邦大学医療センター大橋病院もの忘れ外来 中野 正剛 先生

ケアサービス鶴谷 竹内 宗之祐

「認知症とは、いったん正常に発達した知能が、後天的な脳の器質障害により持続的に低下し、社会生活に支障をきたすようになった状態」という切り口から始まり、疾患としての認知症の説明・ケアの方法・本格的な病気の話・認知症の診断・まとめという順で講演してくださいました。

私たちケアマネジャーが在宅支援をすすめるにあたり、認知症を知ることはとても重要です。そして、求められています。

BPSDの理解や、その症状の情報収集能力は必須で他職種と連携し支援を実施する上では大切な技術の1つです。医療・介護スタッフのみならず利用者さんを、いちばん身近で観察しているご家族からの情報も分析し利用者さんを全人格的に捉え、その人らしさを知り、失われた人格や隠された人格にも目を向ける大切さを学びました。また、認知症の症状には、こころの症状、からだの症状がありQOLを保持するためには、これらの症状の理解と最適な手立てが必要であることも改めて教えていただきました。

以前、「老化とは喪失体験の連続である」という言葉を聞いたことがあります。これは、中野先生が説明された「発達した知能が脳の器質障害により持続的に低下する」という部分と重なります。徐々にできないことが多くなる認知症を患う利用者さんの支援の難しさや複雑さを再度、考える機会として提起して下さったようにも思えます。

小さな変化も見逃さず、利用者さんやご家族に寄り添って支援を継続する相談者としての関わりもケアマネジャーには求められます。

教育講演で教えていただいた「ケアマネジメントに活かすための認知症の知識」を現場に還元し、明日からの業務に取り入れていきたいと思います。

中野正剛先生、貴重なご講演、ありがとうございました。



ラ ン チ ョ ン セ ミ ナ ー A

講 師：田中 志子 先生（医療法人大誠会 理事長）

テーマ：『身体拘束によらない認知症ケアの実践』

座 長：大澤 誠 先生（理事）

共 催：（株）ツムラ

大井戸診療所 大澤 誠



抄録にある様に「身体拘束を受けることにより抑制された身体機能の低下、またそれから来る合併症による心身の状態の悪化、介護者の心の傷」など身体拘束のデメリットは数多くあげられる。しかし、それはわかっている、多くの医療・介護現場では身体拘束がなお続いている。

今回は、田中先生に、身体拘束を回避するための具体的な方法を写真や動画を使ってわかりやすくお話しいただいた。講演を聴き終わっての清々しさは、認知症の人の尊厳を守ろうとする演者の真摯な態度が、終始感じられたからだと思われる。

本セミナー参加者には、日本慢性期医療協会発行の「身体拘束廃止のためのケアの工夫実例集」がお土産として配られた。講演ともども今後の業務に役立ててほしい。

ラ ン チ ョ ン セ ミ ナ ー B

講 師：平林 久幸 先生（わたらせリバーサイドクリニック 理事長）

テーマ：『桐生版！見える事例検討会（桐生見え検）』に参加して見ませんか？

座 長：高田 勢子 先生（介護老人福祉施設ふじあく光荘 施設長）

共 催：エーザイ（株）

介護老人福祉施設ふじあく光荘 施設長 高田 勢子

皆様は、見える事例検討会（見え検）をご存知でしたか？

平林先生は、枝分かれのマップで自己紹介をして下さったり、動画を見せて下さったり、実際の検討会の様子を非常にわかりやすく説明して下さいました。

キーワードとして①ファシリテーション②見え検マップが抄録にも挙がっていますが、お話の中には③アクセプトオール（参加者の、全ての意見、全ての存在を受け入れる）のルールがある事も補足されていました。

全国的に多くの地域でファシリテーター（進行役）の養成講座が開かれているようですので、今後の群馬県内での見え検の展開が楽しみです。

今回参加できなかった皆様も、一度「桐生見え検」にご参加してみたいかと思いますが、百聞は一見に如かず、です。



セッション①

「認知症ケア事例検討会」(野中猛方式)

<進行：安藤 繁 大会長>

<助言者：中野 正剛 先生・大澤 誠 理事>

居宅介護支援事業所ゆずりは 野田 勝也



野中方式事例検討会に参加しました。はじめに事例検討会の意義や演習の流れなどの説明があり、その後事例検討に入りました。事例提供者による説明を聴き、見立て(アセスメント)を進めていく中で、事例について自分なりのイメージを持って質問していくことで、必要な情報が得られて問題点が明確化されていくと感じました。見立てに時間を多く費や

したこともあり、手立て(プラン)の時間が少なくなりましたが、手立てについても具体的に分かりやすく整理されました。今回の事例検討会には、認知症専門医の中野正剛先生と大澤誠先生の参加があり、認知症の事例をもとに専門領域の知識を学べるといった貴重な体験学習となりました。

セッション②

「インテークを学ぶ」

<講師：黛 輝雄 学術研修委員>

老人保健施設ココン 鳥潟 充俊

セッションの要諦は、①「クライアントの主訴を傾聴し来談動機の把握」、②「ワーカーの属する機関機能をクライアントのニーズに関わらせ説明する」、③前記の経過過程の中で「クライアントと信頼関係を構築し支援を受けることを確認すると」と説明されました。その際の要点は、必要な情報だけを一方的に得ようとするのではなく、クライアントの訴える話しに十分耳を傾け、相手を理解する姿勢こそが必要であり、初めての面接においてすでにクライアントとの人間的関わりが開始されていて、どのようなインテークを行うかがその後の支援プロセスに大きな影響を及ぼすことになる、この点を十分に理解しておくことが重要ポイントであろうと認識させられた研修会でした。



セッション③

「アセスメントを学ぶ」

<講師：高麗 寿史 理事：関根 京子 理事>

在宅介護支援センターしづかわ 高橋 敬子



6つのグループが、3つの事例の「原因」「予後予測」について話し合いました。各グループでは活発な意見交換ができていました。実際のアセスメントの場面では、「予後予測」を想像しているものの、声に出し意見を出し合うことがないため自分以外のケアマネの発言にはとっとする場面がありました。関根講師の訪問看護で関わった事例は、その方の意向に沿ったプランを立てるために困難をクリアして希望を叶えていて、そのパワーに驚きました。

セッション④

「施設系ケアマネジメント」

<講師：折茂 賢一郎 会長>

かぶらの里 須賀 博之

まず講師の折茂会長から、普段みなさんはケアプランのモニタリングをしていると思いますが、現状の介護現場の評価の指標が曖昧で、どこで評価するか迷ったり、施設は一律に三大介護が出てくる「お世話型介護」になっている所もあるかと思います。今日は「はかる」について考えましょうと課題提起がありました。

老健では利用者・家族とも同じ目線で見られるようにICFステージングを使った「R4システム」を全国的に普及させ、入所者を「はかる」ことで多職種協働ケアを行い「地域包括ケアシステム」と連動した取り組みを紹介されていました。この取り組みを厚労省が高い評価をしており、今後老健入所者だけでなく在宅復帰後の生活を支援の為に検討を重ねる予定であるとの紹介もありました。最後に講師から「ケアに極意があるとすれば、しっかりと本人をひもといて寄り添うこと」だと思いますと締めくくられていました。

今回研修を受講して、普段から施設内多職種協働や利用者・家族と同じ目線でのケア展開が難しい中で、「はかる」事の大事さを感じ、まずは実践することから始めて行こうと思いました。



セッション⑤

「カンファレンスに活かすコミュニケーションスキル」

<講師：菅野 圭一 理事>

涌永接骨院 涌永 猛



菅野先生はまず対人関係において特に大事なポイントの1つは「合わないタイプ」と自分の対人認識との差を理解することが重要だと説明されました。人の心の動きについては、誰もがある程度の知識をもっています。経験上少なくとも自分自身や身近な人達への人物像もっています。しかし、客観的な分析できないと一人よがりです実体と不整合な人物像を

作り上げてしまうことになります。このセッションでは自分や他者を知るために、手法としてゲームを活用し性格タイプの理解を進めていくもので講義のみだけでなく、体全体を使いながら学べる楽しいカリキュラムでした。

セッション⑥

「ケアマネ座談会 シャベリ場80分Vol.5」

「北関東ブロック研修会併催」

<講師：松沢 斉 副会長>

老人保健施設鬼石 成瀬 文雄

10回を数えるフォーラムのなかで、シャベリ場は今回が5回目。そもそもの始まりは、予定していた講師が急な用事によりキャンセルとなったため、「急場しのぎで始まった」と松沢氏は話していたが…。

参加者は20名、午後の分科会で前半のみの80分。私はフォーラムの参加自体が初めてで、つまり「シャベリ場」も初参加。事例検討やインテークなどの講義は学術研修というイメージがあり理解できるが、「なんだなんだ？『おしゃべり広場』か『井戸端会議』？」そんな想像をしていた。いざ参加してみると単なる世間話をしている会とは大違い。全ての参加者は傍観者になってはいけない、積極的に発言する等の約束事を決め、話し合う「お題目」を提案し、それに対して意見を出し合い議論するという形式。今回のお題は「要望型ケアプラン」「御用聞きケアマネジャー」についてであった。

茨城・栃木からの参加の方を交えて活発な意見が飛び交い、議論し、実に内容の濃い、また時間が過ぎるのが速い80分間。専門性に満ち溢れた、まさに「シャベリ場」だった。



事務局便り

平成25年度会費の納入はお済みでしょうか？
再度ご確認をよろしく願いいたします。

会員の皆様には日頃より本会の運営に関しましてご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、平成25年度会費の納入はお済みでしょうか。

本会は会員の皆様の会費により運営いたしております。会費納入にご協力の程を、よろしく願いいたします。

また、本会では会員の皆様に会報や研修会のご案内をお送りしております。これらのご案内は次号から会費を納入下さった方のみに限定させていただきます。

なお、これ以後は会費納入の確認ができ次第ご案内をお送りする予定です。

また、ご不明なこと等がございましたら、事務局までご連絡ください。

(連絡先/TEL 027-255-6226 事務担当 伊藤)

Facebookページ 作成しました!!



広報情報委員会より

群馬県介護支援専門員協会の活動状況や研修会案内など掲載する予定です。

すでにFacebookを活用している方も、これから…という方もご覧下さい。(登録していない方も閲覧できます。)

そして、是非「いいね」をクリックして下さい。

下記URLまたは、「Facebook 群馬県介護支援専門員協会」で検索!!

<https://www.facebook.com/cmgunma>

編集後記

3年連続のフォーラム特集号の担当になりました。大会終了後は編集作業に追われることが恒例となりました。貴重な写真や原稿を書いていただいた方々に、深く御礼申し上げます。

涌永